

白馬高校の存続・魅力化は、地域の将来にかかわる問題です

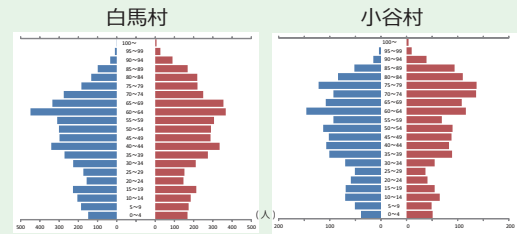
1. 地域の現状を知りましょう

白馬村も小谷村も「消滅可能性が高い市町村」とされています。

	人口移動が収束しない場合の推計値				若年女性人口変化率 (2010→2040)
	2010年		2040年		
	総人口	20-39歳女性	総人口	20-39歳女性	
白馬村	9,205	1,001	6,982	489	-51.2%
小谷村	3,221	254	1,337	56	-77.9%

(出典：日本創成会議)

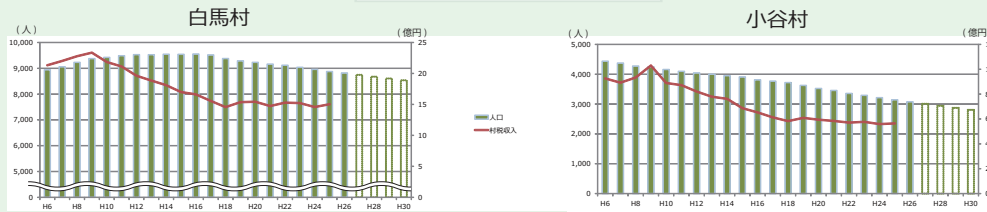
人口ピラミッド (H26.4.1)



現時点での高齢化率は、白馬村が約 27%、小谷村が約 36%
5年後、10年後は…?

(資料：白馬村民民課・小谷村民福祉課)

人口と村税収入の推移



白馬村・小谷村ともこの 10 年間で 700 人以上の人口が減少し、税収も減少の一途をたどっています。

※将来人口は日本創成会議の推計した 2040 年の人口を基に減減させたものです。(資料：白馬村民民課・税務課、小谷村民福祉課・総務課)

2. 地域における高校の存在価値を考えましょう

地域から高校が無くなると…

- 子どもを遠方に通学させなければならないため、生徒・保護者の時間的・経済的な負担が大きくなります。
- 中学校を卒業した生徒が村外へ流出します。生徒とともに世帯ごと転出していく家庭も少なくありません。
- 全ての子どもが高校・大学を村外で過ごすため地元に着が持たず、大学卒業後も地元に戻らない可能性が高くなります。

人口減少、高齢化・過疎化が **×**
急速に進行し、地域が衰退します

地域に魅力的な高校があると…

- 時間的・経済的な負担が少なく、地元の高校に安心して通学させることができます。
- 地域の歴史や文化を学んだり、住民や行政との連携により地元愛を育み、大学卒業後は地元に戻りたいと思う生徒が増えます。
- 自然や景観だけでなく、魅力ある教育環境を目的とした若者の I ターン・U ターンが増加し、経済も活性化され税収も増加します。

人口減少、高齢化・過疎化を **○**
抑止し、地域に活気を与えます

つまり、**!** 高校の存続は若い家族定住の必須条件であり、**地域の存続** に直結する問題です。

現実には、高校が廃校となり人口減少が止まらない地域が多く存在します。

そして、魅力的な教育環境の整備により子どもの数が増加している地域も存在します

▶ 地方が注目されている今、魅力ある高校づくりによって元気な村を創出する必要があります。

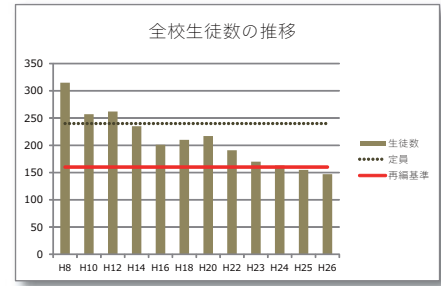
<裏面では白馬高校の現状と取り組みをお伝えします>



3. 白馬高校の現状をご存知ですか？

白馬高校は、昭和 26 年に地元の村が地域振興を願い組合立高校として開校し、昭和 38 年に県立に移管されました。スキーの名門校として全国に名を馳せ、先のソチ五輪には現役生・卒業生を含め 5 人もの選手を送り出しました。しかしながら、全校生徒数が 2 年連続して 160 名を割り、長野県教育委員会の高校再編基準に抵触したため、①分校化、②他校との統合、または③募集停止（現役生卒業後閉校）の対象となっています。

平成 27 年度は経過措置として従来どおり県による 2 クラス募集が維持されますが、平成 27 年度以降も全校生徒数が 160 名を下回る状況が続くようであれば、統合は免れません。「オリンピック選手を出した学校がまさか無くならないだろう」という理論は通用しないのです。



4. 白馬高校の取り組みを紹介します

白馬高校は素晴らしい学校です。北アルプス山麓の美しい環境の下、生徒たちはのびのびと勉学にスポーツに励んでいます。親も子も様々なストレスにさらされた都会の学校には無い良質な環境が白馬高校にはあります。

現在、「白馬高校レポートチャンネル」の発行や「公開授業」の実施により、地域に開かれた学校づくりに努めているほか、放課後の「しろま塾」による学力向上などに取り組んでいます。しかし、大学受験への対応や卒業後の就職について不安を感じている生徒や保護者が多く、定員割れが続いているのが現状です。

上記の①～③にはない④**高校存続**に向けて「白馬高校の将来を考える会」が長野県教育委員会に提出した「地域案」を骨子として、「地域に根差しながらも世界に通用する人材づくり」を目指し、以下のような改革案を検討しています。

地域の子どもたちが「入学したい!」と思うような魅力的な白馬高校をつくることにより、元気な村を創出します。



1. 観光学科の創設

平成 28 年度から普通学科に加え、観光を主要産業とする白馬村・小谷村で即戦力となり得る人材を育てるために、観光学科を開設します。観光学科では、**実用英語に重点を置いたカリキュラム**を採用し、外国人向け宿泊施設でのインターンシップ制度を導入するなど、**高校卒業までに実践英語が身に付くような仕組み**を構築します。また、**山岳や自然環境、コミュニケーションやホスピタリティなど**、国際的な山岳観光地において必要とされる知識や技能の習得を目指します。（普通学科においても英語に触れる機会を多く設けます）

2. 進学力の向上

大学受験に対応するカリキュラム編成とするだけでなく、地域に塾や予備校が少ない事実を鑑み、希望者を対象に**公営塾での放課後補習**を実施します。志望大学に現役で合格できる学力を付けるべく、専任講師が丁寧な指導を行うとともに受験で勝つためのノウハウも伝授します。

3. キャリア教育の充実

高校生が将来を考えるきっかけとなるよう、各界の著名人を講師に招き「**グローバル講演会**」を定期的に開催します。様々な分野の最前線で活躍されている方々の「**生の声**」を聴くことにより、社会の多様性を感じるとともに「**今すべきこと**」や「**なぜ学ぶのか**」といったことを考える機会を数多く設けます。既に本年度から実施していますが、今後の講演者として、社会活動家／法政大学教授の湯浅誠さんや、宇宙飛行士の山崎直子さん（調整中）を予定しています。

4. 地域とのつながりを強化

現在の公開授業等に加え、企業や行政だけでなく地域住民との協働活動を積極的に取り入れ、地域の課題解決に取り組むなど、**産学民官の連携事業**を展開します。地域のことを学ぶことで地元愛を深め、「**地域に貢献したい**」という心を育みます。

5. ICTツールを活用した学習を支援

タブレット端末や電子黒板など、学習を効率的に進めるための教材を活用し、**生徒のやる気**を引き出します。

6. 留学制度の拡充

これまでも毎年数名のロータリークラブ交換留学生を輩出・受入してきた実績がありますが、今後はさらにオーストラリアなど海外とのつながりを密にし、**交換留学制度の導入**等を検討します。

7. 部活動への支援

これまで培ってきた**スキーの伝統**を守るとともに、他の部活動への支援も拡充します。

8. 生徒の全国募集

地域の少子化・人口減少を視野に入れ、将来的には寮を整備した上で全国から生徒を募集し、**地元の生徒と全国から集まった生徒とが切磋琢磨**しながら成長する環境も検討します。

お問い合わせ：白馬高校魅力化プロジェクト事務局（白馬村役場総務課内）

電話：0261-72-5000 E-mail：high-school@vill.hakuba.lg.jp

web-site：http://www.vill.hakuba.lg.jp/high-school/

みなさんのご意見をお聞かせください。